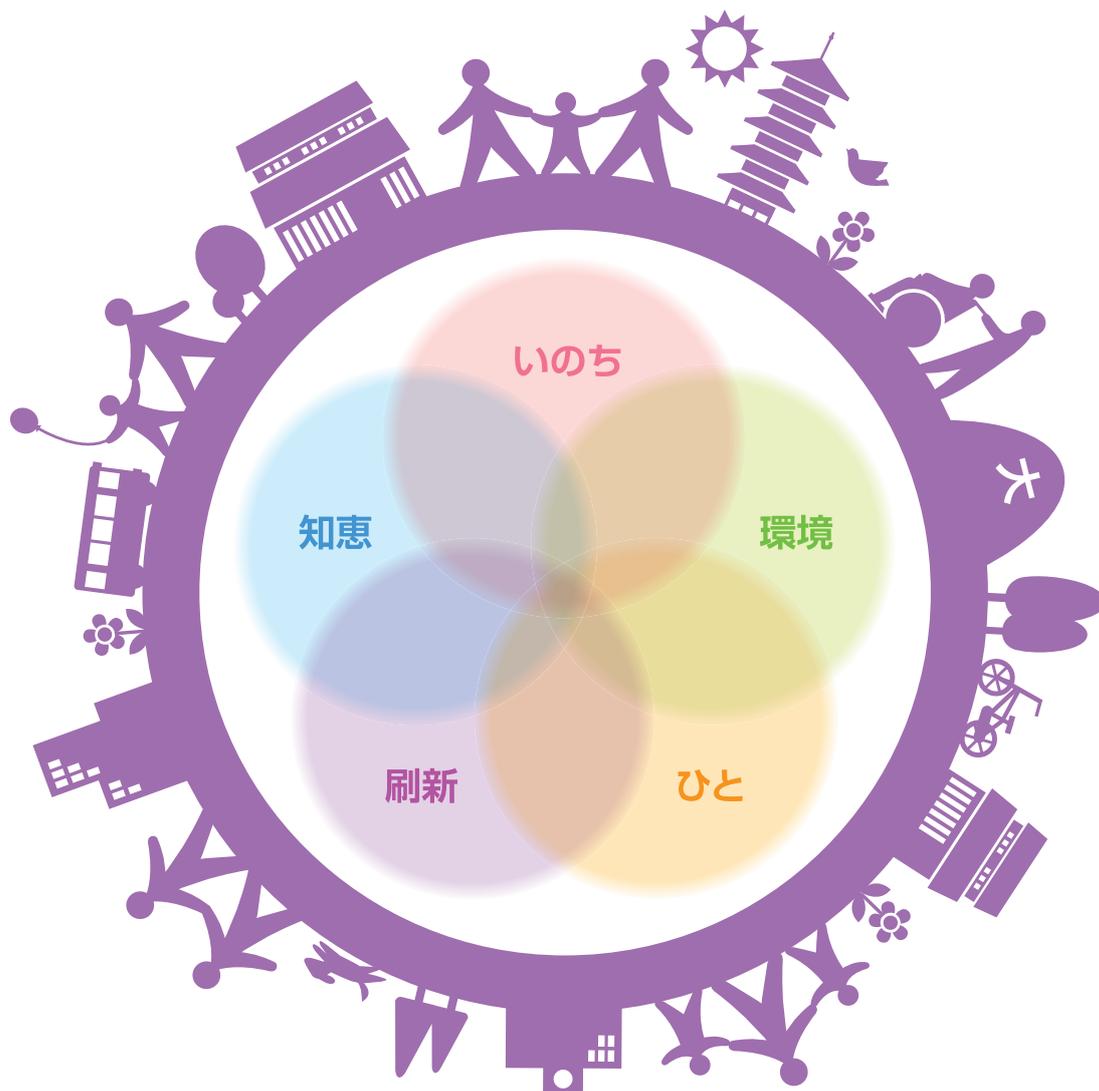


京都未来 まちづくりプラン



京都力を育み、
「共汗」と「融合」で進めるまちづくり



京都市
平成21年1月

「京都に住んで良かったね。」と言えるまちづくりを目指して

京都市は、市民の皆様により、今後の京都の姿を実感し、夢を共有していただき、「共汗」と「融合」で目標に向かって邁進するための羅針盤として、4年間(平成20(2008)～23(2011)年度)での「政策推進」と「行財政改革・創造」の取組が一体となった「京都未来まちづくりプラン」を策定しました。



京都市長 かどかわ だいさく 門川 大作

世界の人々を魅了し続けるまち「京都」

花のパリ、芸術のフィレンツェ、学術のボストン、悠久の歴史を持つ西安、世界でも有名なこれらの都市は、すべて京都市と姉妹都市を結んでいるまちです。また、皆さん、旅先でどちらから来られましたかと尋ねられ、どこことなく笑みを浮かべて「京都から来ました。」と答えた記憶はありませんか。そして、「良いところに住んでいますね。」と言われたことがないでしょうか。

京都は、山紫水明のもと、そこに住む人々は歴史と伝統を感じつつ、いきいきと暮らし、長年培った英知を活かしながら、進取の気風をもって新たなものを創生し、それが折り重なって築かれた世界の人々を魅了し続けるまちであり、「世界のなかの京都」であります。

市民ぐるみで幾多の危機を乗り越えてきた「京都」

この誇るべき京都は、過去の様々な危機を乗り越え、市民ぐるみで作り上げてきたまちです。明治期への移行に伴う都市の衰退の危機を脱した、全国初の学校創設や疏水建設などの京都復興策。戦後の財政窮乏により財政再建団体となった折も、行政整理による縮減策のみならず、京都市交響楽団の創立をはじめとする国際文化観光都市に向けた施策の推進など、将来の京都を展望し、市民と行政が力を合わせて難局を乗り越えてきました。

そして、現在、京都市は、21世紀の最初の四半世紀におけるグランドビジョン「京都市基本構想」に基づき策定した京都市基本計画(平成13(2001)～22(2010)年度)のもと「安らぎのある暮らし」と「華やぎのあるまち」の実現に向け、市民の暮らしを守り、京都の発展に必要な政策を着実に推進しています。一方、極めて厳しい財政状況が続く中で、市民の皆様の御理解、御協力を得ながら、間断なく行財政改革に取り組んでいます。

今、大きな岐路に立たされている「京都」

しかし、京都市はもともと財政基盤がぜい弱なうえ、福祉など義務的経費が増加していることに加え、国の「三位一体改革」以降、地方交付税等が大幅に削減されたことなどから、財政状況は極めて深刻な事態となっています。

一般会計における平成21年度から23年度までの3年間の財政収支見通しを試算した結果、この間の財源不足見込額の合計は964億円（平成20年7月に本プランの骨子を作成した時点での試算）もの多額に上る見通しとなりました。これまでの行財政改革の延長線上に止まらない、抜本的な行財政改革の取組を行わなければ、一般会計だけでも財政再生団体に転落しかねないほどの深刻な財政状況にあります。

さらに、一般会計以外の特別会計や企業会計の経営状況も深刻です。例えば、国民健康保険事業や、市バス・地下鉄の交通事業などは巨額の累積赤字を抱える上に、これまでのように一般会計からの補てんに依存することはできません。とりわけ地下鉄事業の累積債務は今後急速に増加することが予想されることから、京都市全体の財政運営に甚大な影響を与えることは避けられません。平成13年の「財政非常事態宣言」以上の危機的な状況が継続しているのが京都市財政の現実の姿です。

また、昨今は、社会・経済活動の東京一極集中化の進行に伴い地域間格差が拡大するとともに、100年に1度と言われる金融不安の高まりによる株式・為替相場の変動など、先行き不透明感が増しており、京都にも大きな影響があることは必至です。

「共汗」と「融合」で明るい未来を切り拓く「京都」

こういう時だからこそ、京都の明るい未来を切り拓^{ひろ}かなければなりません。

そこで、市民の皆様との「共汗」と政策の「融合」で未来の京都づくりを進めるための都市経営の戦略として、磨きをかけた「政策推進」の取組と、「市政改革」と「財政健全化」を一つにまとめた「行財政改革・創造」の取組とがより緊密になるよう一体化し、進化した「京都未来まちづくりプラン」を策定することにしました。

このプラン策定に当たっては、できる限り早い段階から市民の皆様のご積極的な御意見を頂戴すべく、7月に「京都未来まちづくりプラン(骨子)」を公表致しました。この間、市民の皆様から多くの御意見をいただくとともに、行財政改革については、学識経験者などで構成する京都市市政改革懇談会の部会でも集中的な御議論をいただきました。また、市独自に実施している事業や、全国平均を超える水準の事業の見直しをひとつの物差しとして、京都市にとって本当に何が必要かという視点から、全部局の全事務事業について総点検を行う「サマーレビュー」を実施しました。そして、12月には「京都未来まちづくりプラン(案)」を公表し、2度目のパブリックコメントを行い、2,871件にものぼる御意見を頂戴するなど徹底した市民参

加により、プランづくりを進めてきました。

未来の京都づくりに向けた4年間の羅針盤

このプランでは、厳しい財政状況にあっても、決して縮小一辺倒に陥ることなく、「子どもに笑顔、若者に夢、お年寄りに安心と生きがい」を第一として、市民の皆様にお約束した「未来の京都 まちづくりマニフェスト」に掲げた124の施策をはじめ、未来のまちづくりを進める上で必要な施策・事業を掲げています。

また、将来に負担を先送りせず、不要不急の事業の見直しや、行政運営の更なる効率化による総人件費の削減をはじめとした行政内部での最大限の努力により、できる限り市民生活への影響を抑え、市民の皆様の御理解と御協力を得ながら、徹底した事務事業の見直しや市民に信頼される市役所づくりを進めることとしております。

さらには、京都の持つ「市民力」や「地域力」を引き出す市民との「共汗」と、市民の目線で行政の縦割りを排した政策・施策の「融合」をキーワードに、経営感覚、コスト意識を持って、京都ならではの新たな地域主権時代のモデルとなる取組を実践することとしております。

具体的には、

- 「いのち」、「環境」、「知恵」、「ひと」、「刷新」の5つの視点から見た「5つの京都力向上策」を示す「政策推進プラン」
- 「市民感覚・民間経営感覚による行政運営の確立」及び「京都の未来に責任を持つ財政運営の確立」を目標とした「行財政改革・創造プラン」
- この2つのプランを推進する原動力となる、あらゆる分野での「共汗」の取組を進める「市民の皆様と「共汗」で推進」
- 「地域主権の時代にふさわしい地方自治の確立」
- 将来を見据え、京都の更なる飛躍を目指す「次期基本計画の策定に向けて」
- 「プランの推進及び進ちょく管理の方法」

の6部で構成しています。

私が先頭に立ち、全職員一丸となって、大粒の汗を流して取り組んで参ります。市民の皆様、将来にわたり、「京都に住んで良かったね。」と言えるまちづくりに御理解、御協力をお願い致します。

京都未来まちづくりプラン 目次

京都市の置かれている現状

- 1 間断なき行財政改革により政策を着実に推進 1
- 2 地方交付税の削減が続く、極めて深刻な京都市財政 2
- 3 財政再生団体転落の危機 4
- 4 地下鉄事業の厳しい経営で市全体も危機的財政状況 6

策定の基本的な考え方

- 1 市民との「共汗」と政策の「融合」で未来の京都づくり 7
- 2 計画は平成 20～23 年度までの 4 年間 8
- 3 政策推進プランと行財政改革・創造プランを一体化 8

財源不足の解消方策 9

964 億円の財源不足を行財政改革・創造プランの取組と特別の対策により解消

政策推進プラン

- 1 策定の目的・方針
 - (1) 策定の目的 10
マニフェストの実現、市基本計画の総仕上げ、次期基本計画への架け橋
 - (2) 策定の方針 10
マニフェスト全項目の掲載、「共汗」による推進、「融合」等による磨き上げなど
 - (3) 施策・事業を検討する際の主な観点 12
「共汗」・公民役割分担、政策の「融合」、重要性、将来性、緊急性
- 2 政策推進プランの概要
 - (1) 5つの京都力向上策（いのち、環境、知恵、ひと、刷新）と 29 の基本方向 13
 - (2) 共汗指標（行政が市民と共に実現を目指す目標）の設定 13
 - (3) 年次計画等 13
 - (4) 重点分野と施策・事業の「融合」 15
重点分野に予算を配分、市民の目線で縦割り行政を打破
- 3 施策・事業
 - (1) いのちを大切に 16
 - (2) 環境への高い志を共有 23
 - (3) 知恵を活かし、活力を高める 28
 - (4) ひとを育て、まちを元気に 34
 - (5) 刷新し、市役所を変える 39

4	融合モデル(案)	43
	行政の縦割りを排し,市民の目線で政策を融合	
	行財政改革・創造プラン	
1	改革・創造方針,目標	
(1)	改革・創造方針	55
	仕事の「見える化」 公民役割分担の見直し 京都の未来に責任を持つ財政運営の確立	
(2)	目標	56
	行政運営のやり方を変え,全庁挙げて持続可能な財政健全化を加速	
2	具体的な行財政改革の取組	57
	推進項目1 行政運営手法の改革	58
	都市経営,協働の推進,民間活力導入,縦割りの打破・二重行政の解消など	
	推進項目2 歳出構造の見直し	61
	事業見直し,総人件費の削減,施設の見直しなど	
	推進項目3 歳入の確保	67
	自主財源の拡充強化,保有資産の活用,受益者負担の適正化	
	推進項目4 市民サービスの改革	70
	時代の変化によるサービスの見直し,民間並みの窓口サービス	
	推進項目5 庁内の改革	72
	信頼され,活気あふれる市役所づくり,透明性・説明責任の徹底	
	推進項目6 公営企業・特別会計の改革	74
	市バス・地下鉄など公営企業の経営健全化,国民健康保険事業など特別会計の見直し	
	推進項目7 外郭団体の改革	75
	外郭団体の統廃合等,経営改善,財政的・人的関与の見直しなど	
	市民の皆様と「共汗」で推進	80
	地域主権の時代にふさわしい地方自治の確立	83
	次期基本計画の策定に向けて	85
	プランの推進及び進ちょく管理の方法	88
	プラン策定までの経過	90

参考資料

1	京都市基本計画の進ちょく状況	91
2	行財政改革の取組と成果	92